

## 令和3年度 看護学部4学年シラバス

### <前期>

医療と法	…P1～
現代社会論	…P7～
助産学Ⅱ	…P15～
高齢者への看護学実習	…P23～
地域における看護学実習	…P30～
統合実習	…P36～
助産学実習	…P42～

### <後期>

哲学	…P48～
医療と経済	…P55～
地域看護学Ⅲ（地域看護管理論）	…P61～
助産学Ⅳ	…P66～
マネジメント・リーダーシップ論	…P72～
災害看護学	…P78～
国際看護学	…P85～
マネジメント・リーダーシップ実習	…P92～

区分名：社会の理解を深める

科目名（英語名称含む）：医療と法（Medical Law）

教員名：藤野美都子

開講年次：4年次，学 期：2021 年度 前期 ，必修

授業形態：講義 ，単位数：1 単位 ，時間数：12 時間

概要：

医事法学とは、医療取り巻く様々な法的問題を対象とし、これを考察する学問である。人の生命・健康に直接関わる医療に対しては、様々な観点から法的な規制が加えられている。また、適切な医療を確保するために、医療関係者と医療施設について法的規制が行なわれている。授業では、まず、医療をめぐる法制度について概説する。次に、医療事故をめぐる諸問題について、具体的事例に即して受講生間で検討する。

授業では、患者の権利を保障する医療を実現するために法制度はどうあるべきかという問題関心を持ちつつ、具体的な問題について受講生に考えてもらえるよう心掛けたい。

学習目標：

一般目標

- ①患者の権利を保障する医療のあり方を考えることができる法的なものを見方を修得する。
- ②患者の権利を保障する医療を実現する法的知識を身につけ、これを使いこなす力を修得する。

行動目標

- ①患者の権利の内容と、患者の権利を保障する意義について説明できる。
- ②医療関係者に関する法的規制について説明できる。
- ③医療施設に関する法的規制について説明できる。
- ④インフォームド・コンセントの定義とその意義について説明できる。
- ⑤患者の個人情報保護の意義について説明できる。
- ⑥医療事故について、法的観点から考察することができる。
- ⑦医療事故の予防と、医療事故の対処について説明できる。
- ⑧感染症対策について説明できる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	○	看護実践の場で看護職とし

		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		ての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の要件である。
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	-	修得の機会がない。
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	-	修得の機会がない。
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		

3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	●	実践のなる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	-	修得の機会がない。
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		

		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	-	修得の機会がない。
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	-	修得の機会がない。
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		

		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	修得の機会がない。
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない。
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					

1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	-	修得の機会がない。
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：手嶋豊『医事法入門（第5版）』有斐閣・2018年

参考書：『医事法判例百選（第2版）』有斐閣・2014年

成績評価方法：授業への参画態度（評価対象は、講義に対するコメントペーパーと質問・意見表明）60点と提出課題40点により総合的に評価する。

その他（メッセージ等）：

受講生が「自ら考える」ことを基本とし、授業時間内に受講生による意見交換の場を設けるので、授業への積極的な参画を求めます。また、医事法を学ぶ上で、医療を取り巻く社会状況に関する理解は不可欠です。受講生が、様々なメディアを通じて日々情報を収集し、今日の社会状況に関する理解を深めることを期待します。

#### 授業内容(学習項目)

回数	項目	内容(キーワード等)
第1回	講義案内・患者の権利	患者の権利に関する法的文書
第2回	医療関係者に関する法的規制	保健師助産師看護師法 その1
第3回	医療関係者に関する法的規制	保健師助産師看護師法 その2
第4回	インフォームド・コンセント	インフォームド・コンセントと看護師の役割
第5回	医療施設に関する法的規制	医療法 その1
第6回	医療施設に関する法的規制	医療法 その2
第7回	医療事故をめぐる法的責任	医療者の法的責任：民事責任
第8回	医療事故をめぐる法的責任	医療者の法的責任：刑事責任・行政法上責任
第9回	医事裁判	医事裁判の判決文を読む
第10回	個人情報保護	個人情報保護法
第11回	医事紛争解決制度	医療ADR・医療メディエーター
第12回	医療と人権保障	感染症予防法・予防接種法・新型インフルエンザ等対策特措法など

区分名：社会の理解を深める

科目名（英語名称含む）：現代社会論（Contemporary Social Studies）

教員名：立柳 聡

開講年次：4年次，学 期：2021年度 前期 ，必修／選択：必修

授業形態：講義 ，単位数：2単位 ，時間数：30時間

概要：現代という時代の下に成立している社会の特色を、そのあり方に重大な影響をもたらしたとみられるパラダイム、社会変化の背景と概要を中心に紹介し、現代社会について考察を深めるための基礎的な社会科学の知見を教授する。

学習目標：

一般目標；現代社会について、社会科学の知見を踏まえ、自ら考察できるようになる。

行動目標；1）現代社会のあり方に規定的な影響を与えているとみられるパラダイムや社会変化を理解できるようになる。

2）現代社会のパラダイムや社会変化を反映して起きているとみられる社会現象とその特色を理解できるようになる。

3）現代社会の本質的な特色を把握する上で重要なヒントを提供しているとみられる代表的な現代思想の概要がわかるようになる。

#### 学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	—	修得の機会がない。
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		

3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	態度、習慣、価値観を模範的に示せることが単位認定の要件である。
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	—	修得の機会がない。
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	◎	実践できることが単位認定の要件である。
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	◎	看護の一部として実践できることが単位認定の要件である。
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		

2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	—	修得の機会がない。
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	◎	看護の場に知識を応用できることが単位認定の要件である。
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	◎	看護の場に知識を応用できることが単位認定の要件である。
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		

3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない。
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					

<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	○	理解と計画立案が単位認定の要件である。
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない。
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	—	修得の機会がない。
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：必要に応じ、順次、プリントを配布します。

参考書：講義を踏まえ、適時、紹介していきます。

成績評価方法：

- 1) 出席状況、フィードバックペーパーの内容、試験、各種の減点によって、総合的に判定します。なお、過去問の出題はありません。詳細は開講時に説明します。
- 2) 欠席された場合は、その日の講義の要点をまとめた自己学習報告書を所定の日までに提出していただきます。万一未提出となった場合は、減点とします。なお、内容に問

題がある場合は、必要に応じ、個別の呼び出しをさせていただき、問題点の指導に当たります。

- 3) 科目担当者の判断として、再試験は行いません。皆さんの運命を決する国家試験に再試験はありません。前哨戦と位置づけて、真剣勝負に挑む心構えを培うトレーニングとあってほしいと期待です。
- 4) 万一、不合格となった場合は、10月に特設講座を開設し、再履修していただきます。ゼミナールまたは講義に代替える課題に取り組んでいただき鍛えます。なお、そのための準備を8月から始めていただきます。11月に何らかの方法で学びの成果を評価し、合否判定を行います。これでも不合格となった場合は、12月より改めて特設講座を開設して、最履修していただきます。1月に何らかの方法で学びの成果を評価し、合否判定を行います。なお、これをもってラストチャンスといたします。

その他（メッセージ等）：

- 1) 気楽、安易、暢気な態度には厳しく措置します。
- 2) 命に向き合うに相応しい人間のあり方に常にこだわり、講座の運営に当たります。私語、授業中の中抜けなどの迷惑行為に対しては、厳しく措置します。
- 3) 部活の都合は一切考慮しません。
- 4) 「生活と科学」で指導したことは、しっかり身に付いているという前提で授業を進めます。減点にならないようご注意ください。
- 5) この科目は必修科目です。不合格になると留年になりますので、十二分に心して合格、単位取得を目指してください。
- 6) より良い講義を目指して、23回の講義内容と展開方法は、開講までにさらに練り上げて参ります。順番が変更になったり、内容を統合したり、現代社会の新たな動向に配慮して内容を付け加える可能性があります。また、皆さんからの質問にお答えする都合などで時間が足りなくなる場合もありますので、その場合は、逆に内容の一部割愛といったことが起きる可能性もあります。悪しからずご容赦ください。
- 7) 高校の「世界史」や「日本史」の教科書の現代史部分や、「政治・経済」の教科書などを読み直されたり、折々に参照されると、一段と講義内容が理解しやすくなると思われます。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	オリエンテーション・その1	現代社会をどのように捉えていくか。現代社会のあり方に最も重大な影響をもたらしているとみられるパラダイムや社会変化の背景と概要を紹介すると共に、今後の講座の進め方と評価について説明します。
第2回	現代社会のパラダイ	資本主義の本質、福祉国家の成立と矛盾

	ム・その1「新自由主義」(第1章)	
第3回	現代社会のパラダイム・その1「新自由主義」(第2章)	新自由主義の登場ともたらしたもの(貧困、格差、労働の不安定化、生活難民など)
第4回	現代社会のパラダイム・その1「新自由主義」(第3章)	世界的規制緩和など、第3回の続きを講じます。
第5回	現代社会のパラダイム・その1「新自由主義」(第4章)	新自由主義に対抗する様々なビジョン(「第三の道」、正義、「人間の安全保障」、 $r > g$ など)
第6回	現代社会の社会変化・その1「グローバル化」(第1章)	日本企業の海外進出とその影響
第7回	現代社会の社会変化・その1「グローバル化」(第2章1)	ナショナリズムの台頭と国内の多文化共生
第8回	現代社会の社会変化・その1「グローバル化」(第2章2)	第7回の続きを講じます。
第9回	現代社会の社会変化・その1「グローバル化」(第3章)	地球環境問題とエコロジー
第10回	現代社会の社会変化・その1「グローバル化」(第4章1)	世界リスク社会論(予測不可能なリスク、世界的リスクなど)
第11回	現代社会の社会変化・その1「グローバル化」(第4章2)	第10回の続きを講じます。
第12回	現代社会の社会変化・その1「グローバル化」(第5章)	病気と医療、テロのグローバル化
第13回	現代社会のパラダイム・その2「個人化・個人主義」(第1章)	個人が注目され始めた背景と現代家族の形成
第14回	現代社会のパラダイ	現代家族の特色

	ム・その2「個人化・個人主義」(第2章)	
第15回	現代社会のパラダイム・その2「個人化・個人主義」(第3章1)	現代家族に起きていること
第16回	現代社会のパラダイム・その2「個人化・個人主義」(第3章2)	第15回の続きを講じます。
第17回	現代社会のパラダイム・その2「個人化・個人主義」(第4章1)	若者はなぜ自立困難になるのか
第18回	現代社会のパラダイム・その2「個人化・個人主義」(第4章2)	第17回の続きを講じます。
第19回	現代社会の社会変化・その2「リローカーゼーション・グローカル化」(第1章1)	コミュニティ、共助、コミュニタリアニズム
第20回	現代社会の社会変化・その2「リローカーゼーション・グローカル化」(第1章2)	第18回の続きを講じます。
第21回	オリエンテーション・その2	試験と評価、合格判定に関する説明
第22回	現代社会の社会変化・その2「リローカーゼーション・グローカル化」(第2章1)	少子化、高齢化、過疎化、限界集落、消滅自治体、村・町おこし、人口減少
第23回	現代社会の社会変化・その2「リローカーゼーション・グローカル化」(第2章2)	第22回の続きを講じると共に、全体の総括を行います。

区分名：看護実践の応用となる科目

科目名（英語名称含む）：助産学Ⅱ MidwiferyⅡ

教員名：森美由紀、渡邊まどか、亀岡康子、大内美奈、非常勤講師

開講年次：4年次，学 期：2021年度 前期 ，必修／選択：選択

授業形態：講義、演習 ，単位数：6単位，時間数：90時間

概要：

分娩期から産褥までの母子とその家族の健康レベルを診断し必要なケアを学修する。分娩期では、分娩介助技術の習得をはじめ産婦が主体的に満足した分娩をするためのケアを学修する。産褥期では母親と家族を含めが新しい役割取得ができるように援助するために、診断技術およびケア技術を学習する。

助産師として実務経験のある教員が担当する科目である。

学習目標：

1. 分娩期の助産診断と支援

- 1) 分娩開始の予知及び診断を理解する。
- 2) 分娩の時期及び経過の診断と予測を理解する。
- 3) 分娩進行に伴う産婦の状態と適応の診断を理解する。
- 4) 産婦の主体性を尊重した出産環境とケアを考える。
- 5) 正常分娩の介助方法を理解する。
- 6) 分娩期に起こりうる異常とそのケアを理解する。
- 7) 分娩期の助産過程を展開する。

2. 産褥期の助産診断と支援

- 1) 産褥期の身体的、心理的、社会的特徴を理解する。
- 2) 産褥ケアに求められる実践能力を理解する。
- 3) 産褥期の助産診断の視点を理解する。
- 4) 産褥期の診断に必要な情報と診査方法を理解する。
- 5) 産婦と家族への支援を考える。
- 6) 産褥期の助産診断を展開する。

3. 新生児の助産診断と支援

- 1) 新生児期の助産診断を理解する。
- 2) 新生児期の助産診断における助産師の役割を理解する。
- 3) 新生児期の生理的適応過程のアセスメントの視点とケアを理解する。
- 4) 新生児期の助産過程を展開する。

4. 周産期の異常

- 1) 胎児の成長診断に必要なUSG検査を理解する。

- 2) 妊娠期の異常と合併症妊娠の病態、診断、治療について理解する。
- 3) 分娩期の異常と偶発合併症の病態、診断、治療について理解する。
- 4) 胎児モニタリングの判読について理解する。
- 5) 産褥期に起こりうる異常の病態、診断、治療について理解する。

5. 女性のライフサイクル

- 1) ライフサイクル各期における女性の身体的、心理的、社会的特徴を理解する。
- 2) ライフサイクル各期における助産診断の視点と助産師の役割を理解する。
- 3) リプロダクティブ・ヘルス/ライツを基本とした援助の方法が考えられる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	◎	看護実践の場で看護職者としての態度、習慣、価値感を示せることが単位認定の要件である
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	◎	〃
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	◎	〃
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	◎	〃
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					

看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	◎	実践できることが単位認定の要件である
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	○	基礎となる態度、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		

		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					

1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	修得の機会がない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		

2)	福島から学ぶ	①	福島で起こった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	△	修得の機会があるが単位認定に関係ない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：

- 吉沢豊予子編：助産師基礎教育テキスト第2巻 2020年版 日本看護協会出版会  
 森恵美編：助産師基礎教育テキスト第4巻 2020年版 日本看護協会出版会  
 町浦美智子編：助産師基礎教育テキスト第5巻 2020年版 日本看護協会出版会  
 横尾京子編：助産師基礎教育テキスト第6巻 2020年版 日本看護協会出版会  
 小林康江編：助産師基礎教育テキスト第7巻 2020年版 日本看護協会出版会  
 堀内成子編：助産学講座5 助産診断・技術学Ⅰ 医学書院. 2020  
 我部山キヨ子他編：助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ [1] 妊娠期 医学書院. 2020  
 我部山キヨ子他編：助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ [2] 分娩期・産褥期 医学書院. 2020  
 横尾京子編：助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ [3] 新生児期・乳幼児期 医学書院. 2020  
 細野茂春監修：第3版新生児蘇生法テキスト メジカルビュー社  
 平澤美恵子監修：写真でわかる助産時術アドバンス インターメディカ  
 中井章人：図解CTGテキスト メジカルビュー社

成績評価方法：課題提出・発表、筆記試験

授業内容(学習項目)

1. 分娩期の助産診断と支援 (37回)

回数	項目	内容 (キーワード等)
第1回	分娩期の助産診断	分娩開始の予知及び診断
第2-4回	分娩期の助産診断	分娩時期及び経過診断
第5-7回	分娩期の助産診断	分娩進行に伴う産婦の状態と適応の診断
第8-9回	分娩期の助産診断	分娩の予測診断
第10-12回	分娩期の支援ケア	産婦と家族のケア
第13回	分娩期の支援	胎児と出生直後の児のケア
第14-16回	分娩期の支援	分娩期の異常のケア
第17-19回	事例展開	分娩期の助産過程の事例展開：課題発表
第20回	分娩期の支援	分娩介助技術 (アクティブバース)
第21-25回	分娩期の支援	分娩介助時術 (デモンストレーション)
第26-28回	分娩期の支援	分娩介助技術：自己演習
第29-31回	分娩期の技術	内診・胎児付属物検査：講義と演習
第32-34回	分娩期の技術	臨時応急の手当て(出血・裂傷の手当て)：講義と演習
第35-37回	分娩期の支援	新生児仮死蘇生術

2. 産褥期の助産診断と支援 (24回)

回数	項目	内容 (キーワード等)
第1-3回	産褥期の経過	産褥期の経過：課題発表
第4-6回	産褥期の助産診断	産褥期の助産診断
第7-9回	産褥期の支援	産褥期のケア
第10-12回	事例展開	産褥期の助産過程の事例展開：課題発表
第13-15回	産褥期の支援	産後一ヶ月までの家庭訪問：講義と演習
第16-18回	産褥期の支援	乳房ケア
第19～24回	産褥期の支援	家族計画に関する支援：講義と演習

3. 新生児の助産診断と支援 (11回)

回数	項目	内容 (キーワード等)
第1-2回	新生児期の助産診断	新生児の特徴：課題発表
第3-5回	新生児期の助産診断	新生児期の助産診断
第6-8回	新生児期のケア	出生後24時間以内のケアとその後のケア
第9-11回	事例展開	新生児期の助産過程の事例展開

#### 4. 周産期の異常（12回）

回数	項目	内容（キーワード等）
第 1-3 回	妊娠期の異常	1) 胎児成長の診断としてのUSG検査 2) 妊娠期の異常の診断と対処方法
第 4-6 回	分娩期の異常	1) 分娩期の異常の診断と対処方法 (1) 分娩 3 要素の異常 (2) 分娩時の偶発合併症
第 7-9 回	分娩期の異常	胎児モニタリング
第 10-12 回	産褥期の異常	産褥期の異常の診断と対処方法

#### 5. 女性のライフサイクル（6回）

回数	項目	内容（キーワード等）
第 1～6 回	女性のライフサイクル	思春期にある人の助産診断とケア 成熟期にある人の助産診断とケア 更年期にある人の助産診断とケア 健康問題を抱えた人の助産診断とケア

区分名： 看護の実践

科目名（英語名称含む）：高齢者への看護学実習（Gerontological nursing practicum）

教員名： 齋藤史子, 坂本祐子, 佐々木千佳, 杉本幸子

開講年次：4年次, 学 期：2021年度 前期 , 必修

授業形態：実習 , 単位数：3単位 , 時間数：135時間

概要：加齢による生理的变化と健康問題を抱える高齢者を身体的・心理的・社会的・霊的側面から理解し、高齢者の健康の維持・回復、生活の質（Quality of life）の維持・向上を目指した看護実践を行う。また、地域で生活するあらゆる健康レベルの高齢者とその家族が必要としている支援について理解し、多職種と協働して適切な援助を提供する。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標：

1. 高齢者に積極的な関心を寄せ、高齢者の人物像を理解できる。
2. 高齢者の加齢に伴う心身の変化と、健康障害を理解できる。
3. 高齢者の健康維持のあり方を個々人の健康レベルに応じて考えることができる。
4. 入院治療を受けなければならない高齢者にとって、生活環境の変化が健康状態や日常生活行動に及ぼす影響を理解できる。
5. 科学的思考に基づき、高齢者のセルフケア能力を助長する看護実践ができる。
6. 高齢者と家族の健康維持に果たす看護専門職者の役割を理解できる。
7. 高齢者と家族の暮らしを支える地域包括ケアシステムを理解できる。
8. 高齢者の生活支援における看護の専門性、多職種との協働・連携の必要性について理解できる。
9. 実習中に関わった人々との相互作用を通して、看護専門職者としての自己の形成ができる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	◎	看護実践の場で看護職としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の要件である
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	◎	看護実践の場で看護職としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の要件である
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	◎	看護実践の場で看護職としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の要件である
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	◎	看護実践の場で看護職としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の要件である
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					

看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	○	基盤となる態度、習慣、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	◎	看護の一部として実践できることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	◎	看護の一部として実践できることが単位認定の要件である
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		

		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	—	習得の機会がない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	—	習得の機会がない
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	◎	看護の場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					

1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	◎	看護の一部として実践できることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	●	実践の基盤となる知識を示せことが単位認定の要件である
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		

2)	福島から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せことが単位認定の要件である
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：

1. 北川公子,他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護第9版. 医学書院
2. 鳥羽研二,他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護病態・疾患論,第5版,医学書院

参考書：

1. 正木治恵,他：老年看護学概論（第3版）「老いを生きる」を支えることとは,南江堂
2. 真田弘美,他：老年看護学技術（第3版）最後までその人らしく生きることを支援する,南江堂
3. 堀内ふき,他：ナーシング・グラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害,第5版,メディカ出版
4. 堀内ふき,他：ナーシング・グラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実際,第4版,メディカ出版
5. 山田律子,他：生活機能からみた老年看護過程、第3版,医学書院

成績評価方法：

実習時間（訪問看護実習、病院実習）の5分の4以上の出席をもって単位認定とする。実習目標の達成度、実習中の態度、カンファレンスへの参加状況、実習記録、レポート、事前課題をもって行う。

その他（メッセージ等）：

実習は、訪問看護実習と病院実習を行います。高齢者のQOLの維持向上を目指した看護実践を行うために、加齢による生理的変化や健康問題についてしっかり復習を行い、実習に臨みましょう。また、高齢者の療養場所を考慮しながら、地域包括ケアシステムにおける看護専門職の役割や関係職種との連携・協働についても学びます。地域包括ケアシステムや介護保険制度、多職種連携についても復習し、実習に臨みましょう。3週間、高齢者と関わる実習であること念頭に置いて、感染予防対策、体調管理に努めてください。

区分名：看護専門科目 看護の実践

科目名（英語名称含む）：地域における看護学実習

教員名：古戸順子、高橋香子、高瀬佳苗、阿久津和子、秦暁子、鹿俣律子

開講年次：4年次，学 期：2021年度 前期 ，必修／選択：必修

授業形態：実習 ，単位数：3.0単位 ，時間数：135時間

概 要：地域における看護学実習は、市町村保健師の保健活動（保健事業、健康教育、家庭訪問、ケア会議、住民グループ活動、地区アセスメント）への参加を通して、保健師が行う地域看護活動について学習する科目。

保健師として実務経験のある教員が担当する科目。

実習目的：健康問題を生活者としての視点からとらえ、地域社会で生活している個人、家族、集団、地域を対象とした看護活動の展開方法を学ぶとともに、地域の保健・医療・福祉システムにおける看護職の役割を理解する。地域のさまざまな組織・機関の保健師活動を通して、地域看護活動の基本的な実践能力を習得する。

実習目標：

- 1) 地域の特性と地域住民の健康状態を把握し、地域の健康問題・ヘルスケアニーズを理解する。
  - (1) 地域の歴史や文化、気候、地理的条件等の特性について説明できる。
  - (2) 地域で生活している人々が抱える健康問題とその原因・背景について説明できる。
  - (3) 地域の健康問題とその原因・背景を明らかにする方法について説明できる
  - (4) 解決すべき健康課題と解決策について説明できる。
- 2) 地域の健康の向上や健康問題の解決のために、看護職が展開している看護活動の意義と方法を理解する。
  - (1) 地域の健康の向上をめざし、地域診断に基づいた保健活動の展開過程（計画、実践、評価、修正、PDCA サイクル）について説明できる。
  - (2) 対象者のニーズに合わせた様々な地域看護活動の意義と方法について説明できる。
  - (3) 保健師が地域看護活動の中で用いている基本的な技術について説明できる。
  - (4) 地域看護活動における評価の意義と方法について説明できる。
  - (5) 保健師として必要な姿勢、態度について説明できる。
- 3) 地域の健康の保持・増進、疾病の回復と予防をねらいとする、地域の保健・医療・福祉システムにおける、看護職の果たす役割について理解する。
  - (1) 地域の保健・医療・福祉システムについて説明できる。
  - (2) 住民や関係者との協働による地域の保健・医療・福祉システムの形成・発展過程とその意義について説明できる。
  - (3) 地域の保健・医療・福祉システムにおける行政の機能、保健師の役割について説明できる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	◎	看護実践の場で看護職としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の要件である
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	◎	〃
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	◎	〃
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	◎	〃
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	◎	実践できることが単位認定の要件である
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		

		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	◎	看護の一部として実践できることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	○	基盤となる態度、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）		
1)	豊かな感性と倫理観を	①	感性を高める科目	—	修得の機会がない

	もつ看護専門職者	②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	—	修得の機会がない
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践を支える科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	<del>看護実践の応用となる科目</del>	◎	看護の場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	看護の実践		
		③	<del>看護を統合する科目</del>		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	◎	看護の一部として実践できることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		

		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	△	修得の機会があるが単位認定に関係ない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					

看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	—	修得の機会がない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：第4版データ更新版 公衆衛生看護学 jp インターメディカル

成績評価方法：出席日数（15%）、学内オリエンテーションからまとめまでの実習の取り組み（50%）、記録（15%）、レポート（20%）により、総合的に評価する。

その他（メッセージ等）： 実習市町村によっては、宿泊する必要があります。実習前および実習中は健康管理や事故等に十分に注意してください。また、地域の理解、地域看護学Ⅰ、地域を理解する実習、成長・発達に合わせた健康の維持増進に関する看護Ⅱ、地域看護学Ⅱの他に、在宅看護、小児看護、成人看護、高齢者看護、母性看護、精神看護など領域別看護学も事前学習し、学内での講義と地域看護活動の実際場面を統合させながら学びましょう。

#### 授業内容(学習項目)

<p>1) 実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学内オリエンテーション、市町村実習、実習後のまとめを含み、3週間の実習を行う。 （実習地オリエンテーション削除、市町村実習を加え文言を整理した）</li> <li>・2人～5人を1つのグループとして各市町村で実習を行う。</li> </ul> <p>2) 実習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習期間中に実施される保健活動（保健事業、健康教育、家庭訪問、ケア会議、住民グループ活動、地区アセスメント）への参加を通して、実習目標に掲げた内容を学習する。</li> </ul>
--

区分名：看護専門科目 看護の実践

科目名（英語名称含む）：統合実習【看護4】

教員名：看護系全教員

開講年次：4年次，学 期：2021年度 前期～後期 ， 必修／選択：必修

授業形態：実習 ， 単位数：4.0単位 ， 時間数：180時間

実習目的：これまでの学習をふまえ、自らの課題（関心のある領域・対象，自己の看護実践上の課題）を見出し、その課題の達成に向けて、既習の知識・技術・態度を統合した看護実践を行う。

看護師、保健師、助産師として実務経験のある教員が担当する科目。

実習目標：

- 1) これまでの学びを通し、自らの課題を明確にできる。
- 2) 自らの課題の達成を目的に実習計画を立案できる。
- 3) 実習計画に基づき、これまでに学習した知識・技術・態度を統合しながら看護を実践し、評価できる。
- 4) 自らの課題について看護実践から学び得たことを論理的にまとめることができる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	◎	看護実践の場で看護職としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の要件である。
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	◎	看護実践の場で看護職としての態度、習慣、価値観を
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		

		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		示せることが単位認定の要件である。
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	◎	看護実践の場で看護職としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の要件である。
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	◎	看護実践の場で看護職としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の要件である。
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		

## 2. 生涯学習

看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。

1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	◎	実践できることが単位認定の要件である。
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		

## 3. 人間関係の理解とコミュニケーション

自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。

1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	◎	看護の一部として実践できることが単位認定の要件である。
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	◎	看護の一部として実践できることが単位認定の要件である。
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	—	修得の機会がない。
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		

2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	—	修得の機会がない。
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	◎	看護の一部として実践できることが単位認定の要件である。
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		

#### 5. 看護の実践

人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。

1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	◎	看護の一部として実践できることが単位認定の要件である。
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		

		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	◎	実践できることが単位認定の要件である。
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	△	修得の機会があるが単位認定に関係ない。
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	◎	実践できることが単位

		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。	認定の要件である。
--	--	---	-------------------------------------	-----------

成績評価方法：学習プロセスおよび到達度から総合的に行う。概ね課題の明確化 20%、実習状況 50%、レポート（プレゼンテーション 10%を含む） 30%とする。

#### 授業内容(学習項目)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習課題（関心のある領域・対象、自己の看護実践上の課題）を設定し、以下の領域のいずれかにおいて実習を行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>●基礎看護学部門</li> <li>●母性看護・助産学部門</li> <li>●地域・公衆衛生看護学部門</li> <li>●成人・老年看護学部門</li> <li>●小児・精神看護学部門</li> </ul> </li> <li>・実習開始前までの準備として、下記の内容を担当教員と相談しながら行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>●これまでの学習をふまえて、自らの課題を明確にする。</li> <li>●課題に関連した文献を系統的に検討する。</li> <li>●課題に沿ってどのような実習ができるか検討し、実習計画を立案する。</li> </ul> </li> <li>・各自、実習計画に沿って実習を展開する。</li> <li>・実習方法は課題の内容や実習施設によって異なるため、実習日・時間の調整は、担当教員に相談する。土日や夜間に実習を行った場合は、その振り替えとして代休をとることは構わない。また、1週間に1日程度は、学内における文献学習等の日を設けても、実習時間とみなす。</li> <li>・学生同士で意見交換をすることで学びを深め、課題達成に向けたまとめに役立てるために、中間報告会にて、実習で学んだことを報告する。</li> <li>・自らの課題について看護実践から学び得たことを、8,000字程度に論理的にまとめる。</li> </ul>
--

区分名：看護の実践

科目名（英語名称含む）：助産学実習（Midwifery Practicum）

教員名：篠原好江、石井佳世子、森美由紀、渡邊まどか、亀岡康子、大内美奈、  
非常勤講師

開講年次：4年次，学 期：2021年度 前期、後期 ， 必修／選択：選択

授業形態：実習 ， 単位数：11単位 ， 時間数：495時間

概要：

助産は、出産を中心とした人間の「性」と「生殖」に対する援助活動である。助産学実習では、マタニティサイクル（妊娠・分娩・産褥・胎児・新生児期の各期）にある女性・子ども・その家族が心身ともに健康であると同時に充実した人生経験となることを目指す「分娩介助」を含めた「一連の助産過程」を学習する。

助産師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標：

- (1) 助産過程を展開する。
- (2) 適切な助産実践のための助産診断を行う。
- (3) ウェルネス思考を養う。
- (4) 根拠を持った実践を行う。
- (5) 共感し支持する姿勢を養う。
- (6) 対象の多様性を尊重し、その人なりの出産・育児が創造できるよう援助する。
- (7) 母子や家族への助産の有する教育的機能を発揮する。
- (8) 母子保健に携わるチームメンバーの一員としての役割と責任を学ぶ。
- (9) 広い視野に立った創造力を養う。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	◎	看護実践の場で看護職者としての態度、習慣、価値感を示せること
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		

					が単位認定の要件である
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	◎	〃
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	◎	〃
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	◎	〃
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	○	実践できることが単位認定の要件である
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	◎	看護の一部として実

	とのコミュニケーション	②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		践できることが単位認定の要件である
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	○	基礎となる態度、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	◎	看護の場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)		①	社会の理解を深める科目	◎	看護の場に知識を応用

	創造性豊かな看護専門職者	②	人間の理解を深める科目		できることが単位認定の要件である
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	◎	看護の場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	◎	看護の一部として実践できることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		

		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	○	理解と計画立案が単位認定の要件である
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：助産学実習要項、配布資料

参考書：適宜

成績評価方法：

実習評価表に基づき評価を行う。全体の 6 割以上の点数の取得を合格とする。評価の内訳は、妊娠期 15%、分娩期 50%、産褥期・新生児期 30%、家庭訪問 5%とする。

その他（メッセージ等）：

- ・臨地実習前に、母子の健康診査およびケア、分娩介助技術について積極的に自己学修を行う。
- ・実習時間が不規則で長期間になる可能性が高いことから、自己の健康管理に努める。

授業内容(学修項目)

臨地実習

- ・助産学実習（分娩介助を中心に、11 週間）7 月～9 月
- ・県内の 3 施設において実習を行う。

区分名：人間の理解を深める

科目名（英語名称含む）：哲学（Philosophy）

教員名：福田俊章

開講年次：4年次，学 期：2021年度 後期，必修／選択：選択

授業形態：講義と演習，単位数：1単位，時間数：12時間

#### 概要：

1. 人間は人間であるかぎり誰でも、考えることをやめない。そして、哲学するとは「みずからよく考える」ことに外ならない。「哲学への最良の入門は自分で問題を立てること、自分でその問題を考えることだ」と言われるのも、そのためである。この授業では、そうした営みの実例に触れることで、各人が「みずからよく考える」ようになることを目指したい。

2. 「人間は理性的動物である」（アリストテレス）というよく知られた人間の定義も、そもそもは「人間はロゴス（ものを考える能力）をそなえた動物である」ということを意味する。「人間は存在の理法（ロゴス）、宇宙の調和的秩序（コスモス）を把握する理性——この能力もまた、ロゴスと呼ばれた——をそなえた唯一の動物だ」というのである。そして、哲学は伝統的にこのロゴスをロゴスそのものとして捉えようとする営みとして、あらゆるロゴスの営み（＝学）の中でも最上の営みなだとされて来た。

今日、もはやこうした「万学の女王としての哲学」などという観念が通用するとは思えない。しかし、ロゴスの探求がもっとも自覚的に行なわれた時代の思索を顧みることには、なおも意味があるだろう。哲学の守護聖人とも呼ぶべきソクラテスの「知らないということを知っていること（無知の知）こそ最上の知である」という洞察は哲学的探求のみならず、一般にあらゆる人間の知的探求の核心をついているように思う。この授業では、西欧の哲学について様々な時代の哲学者がそれぞれの流儀で探求した課題を紹介するとともに、受講生が自ら問題を考える機会を提供することを目指したい。

#### 学習目標：

##### 《一般目標》

「いい哲学者になるためにたった一つ必要なのは、驚くという才能だ」（『ソフィーの世界』）と言われるのはどうしてか。「哲学を馬鹿にすることこそ、真に哲学することである」（パスカル）、「人は決して哲学を教わることが出来ず、たかだか哲学するのを学ぶことが出来るだけである」（カント）とはどういう意味か。こうした問題意識に触れることによって、哲学的な思索態度を身につける。

##### 《行動目標》

1 ヨーロッパ古代の哲学——この世界はいったい何で出来ているのか

(1) 「哲学は古代ギリシアの自然哲学者たちによる自然探求の思索から生まれた」とされ

るのはどういうことかが言える。

(2) ソクラテスの言う「知らないということを知っていること（無知の知）こそ最上の知である」とはどういうことかが言える。

(3) プラトンのイデア論とはどういう考えなのかが言える。

(4) アリストテレスによるイデア論批判がどういうものだったかが言える。

## 2 ヨーロッパ近代の哲学——我々人間は何を知ることが出来るのか

(1) 人権思想と近代的な自然科学とに通底するものがなんであるかが言える。

(2) デカルトの「我思う、故に我あり」がどうして近代哲学の出発点とされるのが判る。

(3) いわゆる大陸「合理論」と英国「経験論」との対立が何に由来するのかが判る。

(4) カントの「我々の認識は経験と共に始まるが、経験にもとづいて生じるのではない」という主張の意味が判る。

## 3 現代哲学の諸問題——今の哲学はどんなことを問題にしているのか

(1) 人間の心と身体はどういう関係になっているのか（心身問題）をめぐって様々な解答があることを判る。

(2) 「私は私である」とはどういうことか（人格の同一性）をめぐって様々な解答があることを判る。

(3) 科学的な知識が客観的な妥当性をもつのはどうしてなのか（科学の科学性）について考えることが出来る。

4 総じて、こうしたことを知っただけでは「哲学」したことにはならないと知る。

## 学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	—	修得の機会がない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		

		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	-	修得の機会がない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	-	修得の機会がない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		

		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	-	修得の機会がない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	-	修得の機会がない
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		

		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	—	修得の機会がない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		

6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	修得の機会がない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線(および災害)に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：特定のテキストは用いないが、授業の際に適宜資料を配付するとともに、その都度参考文献の紹介に努めたい。

参考書：

木田 元『反哲学史』講談社学術文庫、2000年

麻生博之・城戸 淳編『哲学の問題群 もういちど考えて見ること』ナカニシヤ出版、2006年

**成績評価方法**：授業への参画態度を中心に、授業中に課す課題の達成度合いなどを加味して評価したい。

**その他（メッセージ等）**：国家試験を間近に控えた4年次の皆さんが受講対象であることを考え、出来るだけ授業時間内で完結するような授業を心がけたいと思っています。少人数の授業になることが予想されるので、授業中には学生の皆さん自身に考えてもらう機会を設けます。自分の頭でものを考える機会と思って御参加ください。

### 授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	導入（前置き）	「知を愛する」こと、ロゴスの探求としての哲学
第2回	古代ギリシアの自然哲学	哲学はどうやって始まったのか、存在と生成変化、水は水のまま水以外のものになる？
第3回	ソクラテス	「無知の知」、「知らない」ということをどうして知っているのか？
第4回	プラトン	イデア論、ただちょっと「忘れていた」だけ？
第5回	アリストテレス	イデア論批判 梅は梅らしく、桜は桜らしく？
第6回	近代哲学の幕開け	人権思想と近代的自然科学とに通底するものは？
第7回	デカルト	「我思う、故に我あり」、私に心はあるのか？
第8回	大陸「合理論」と英国「経験論」	我々人間の知識は何に由来するのか？ 人間の内なる知的能力か、それとも外なる経験か
第9回	カント	「我々の認識は経験と共に始まるが、経験にもとづいて生じるのではない」とはどういうことか？
第10回	心身問題	相互作用説と随伴現象説、テレパシーは心の存在を証するか？
第11回	人格の同一性問題	身体説と記憶説 記憶と身体どちらが入れ替わったのか？
第12回	科学の科学性	検証と反証、反証不可能な主張は科学的か？

区分名：社会の理解を深める

科目名（英語名称含む）：医療と経済（Health Economics）

教員名：大内 講一

開講年次：4年次，学 期：2021年度 後期 ， 必修／選択：必修

授業形態：講義，単位数：2単位，時間数：30時間

概要：主要国の医療制度・医療政策の概略および経済学の基礎知識を習得する。次いで日本の医療制度——医療提供体制、医療保障制度、診療報酬体系など——を理解したうえで医療を起点とした経済効果について検証する。さらに、地域医療構想や地域包括ケアシステムなど現下の医療政策の課題、新時代の看護職の役割を考察する。

学習目標：

一般目標：医療・介護・福祉の諸問題を経済学的に考察する習慣を身につける。

行動目標：自身で医療の諸問題を分析し、現実的な対応策を模索する。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	—	習得の機会がない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	—	〃
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		

3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	△	〃
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	<del>看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。</del>	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	<del>看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。</del>		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	<del>自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。</del>		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	<del>人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。</del>	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	<del>看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。</del>		
		④	<del>望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。</del>		

2)	チームでの コミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	-	習得の機会がない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	-	習得の機会がない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		

3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	習得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	—	習得の機会がない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					

<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	習得の機会がない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	〃
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	—	習得の機会がない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：指定しない（講義レジュメ配布）。

参考書：占部まり編『宇沢弘文 人間の経済』新潮新書

大内講一『やさしい医療経済学（第2版）』勁草書房

小熊英二『日本社会のしくみ～雇用・教育・福祉の歴史社会学』講談社現代新書

小黒一正・菅原琢磨『薬価の経済学』日本経済新聞出版社

島崎謙治『医療政策を問い直す～国民皆保険の将来』ちくま新書

廣井良典『持続可能な医療』ちくま新書

真野俊樹『入門 医療経済学』中公新書

吉川洋『人口と日本経済』中公新書

成績評価方法：レポート試験により評価。課題と提出期限は講義内で明示。

その他（メッセージ等）：市場経済の効率性と同時に社会的公正についても理解して下さい。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	イギリスの医療	家庭医制度、国民保健サービス
第2回	ドイツの医療	病院財政、医療保険と介護保険
第3回	フランスの医療	自由診療、病院の公役務、償還払い制度
第4回	主要国の患者負担	英・独・仏、日本
第5回	マクロ経済学の基礎	付加価値、国民所得、インフレとデフレ
第6回	ミクロ経済学の基礎	需要と供給、費用と利潤
第7回	〃	市場経済の効率性、市場の失敗
第8回	金融	直接金融・間接金融、証券市場、利子
第9回	政府の役割	資格制度、事業免許制度、料金規制、公共財
第10回	〃	所得再分配と税・社会保険料
第11回	〃	財政政策（歳入・歳出、国債）
第12回	〃	金融政策（中央銀行、公開オペレーション）
第13回	日本の医療制度	開業の自由、フリーアクセス、国民皆保険
第14回	医療介護費	国民医療費、介護給付費、社会保障給付費
第15回	保険診療の仕組み	保険医療機関、保険医、診療報酬
第16回	〃	レセプト、審査支払機関、保険者
第17回	日本の診療報酬	社会保険診療報酬点数表、DPC、薬価基準
第18回	医療計画	医療政策の変遷、医療圏、基準病床制度
第19回	今後の医療政策	地域医療構想、地域包括ケアシステム
第20回	医療の経済効果	生産波及効果、雇用誘発効果
第21回	同上	地域経済と医療介護福祉
第22回	新時代の看護職	処遇、地域連携、AI
第23回	まとめ	社会的共通資本としての医療

区分名：看護実践の応用となる科目

科目名（英語名称含む）：地域看護学Ⅲ（Community Health Nursing Ⅲ）

教員名：高橋香子・北浦暁子（非）

開講年次：4年次，学 期：2021年度 後期 ， 必修／選択：必修

授業形態：演習 ， 単位数：1単位 ， 時間数：30時間

概要：本科目では、保健師が担う地域看護管理機能（公衆衛生看護管理機能）、協働による地区活動の展開、地域ケアシステム形成、看護政策と政策形成過程について学習する。

保健師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標：1)保健師が担う地域看護管理機能とその前提条件について説明できる。

2)地区組織活動の特徴や協働による地区活動の展開方法について説明できる。

3)地域ケアシステムや看護政策、その形成過程について説明できる。

#### 学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	〃
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	〃
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	△	〃
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		

2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		

		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	—	修得の機会がない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	—	〃
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践を支える科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					

1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	<p>① 人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。</p> <p>② 人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。</p> <p>③ 人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。</p> <p>④ 健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。</p> <p>⑤ 安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。</p> <p>⑥ 看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。</p> <p>⑦ 看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。</p> <p>⑧ 地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。</p>	—	修得の機会がない
6. 地域社会への貢献				
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>				
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	<p>① 地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。</p> <p>② 人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。</p>	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である

2)	福島から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	—	修得の機会がない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：指定しない。

参考書：開講時に提示する。

成績評価方法：出席状況(15%)、授業への参加度(10%)、課題レポート(15%)、期末レポート(60%)により総合的に評価する。

その他（メッセージ等）：地域における看護学実習での体験を想起し、積極的な態度で授業に参加すること。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1-3回	地域看護管理機能(1)	地域看護管理機能の概要と前提条件
第4-6回	地域看護管理機能(2)	事例管理、地区管理、事業・業務管理
第7-9回	地域看護管理機能(3)	情報管理、予算管理、組織運営管理
第10-12回	地域看護管理機能(4)	人事管理・人材育成、健康危機管理
第13-15回	協働による地区活動の展開	地区組織活動、協働の活動方法
第16-18回	看護政策と政策形成過程(1)	看護政策、政策立案、政策形成過程
第19-21回	看護政策と政策形成過程(2)	政策分析
第22-23回	看護政策と政策形成過程(3)	政策分析結果の応用

区分名：看護実践の応用となる科目

科目名（英語名称含む）：助産学Ⅳ Midwifery Ⅳ

教員名：篠原好江、亀岡康子、非常勤講師

開講年次：4年次，学 期：2021年度 後期，必修／選択：選択

授業形態：講義、演習，単位数：2単位，時間数：30時間

概要：

助産業務の管理および助産所における管理・運営の基本を理解する。

助産師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標：

1. 助産管理の基本概念を理解する。
2. 助産業務が行われている場を理解し、その役割を理解する。
3. 対象のニーズに対応できるための助産管理を考察する。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	◎	看護実践の場で看護職者としての態度、習慣、価値感を示せることが単位認定の要件である
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	◎	〃
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	◎	〃

4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	◎	〃
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	◎	実践できることが単位認定の要件である
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	○	基礎となる態度、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	○	基礎となる態度、スキルを示せることが単位
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		

		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		認定の要件である
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備え	①	看護実践の応用となる科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認
		②	看護の実践		

	た看護専門 職者	③	看護を統合する科目		定の要件で ある
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を 実践することができる。					
1)	人々のニ ーズに基づ いた看護の 実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活 を取り巻く環境の観点で捉えることが できる。	●	実践の基盤 となる知識 を示せるこ とが単位認 定の要件で ある
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・ 医療・福祉制度や関係機関の機能と連携に ついて説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにす るために、必要な情報を収集し、アセスメ ントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計 画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健 康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の 専門職と協働して、人々がその健康問題を 解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ること ができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既 存の社会資源の改善や新たな社会資源の 開発、フォーマル・インフォーマルなサー ビスのネットワーク化、システム化の重要 性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護 専門職者としての役割を果たすことができる。					
(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明で きる。					

1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	修得の機会がない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	△	修得の機会があるが単位認定に関係ない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：配布資料

工藤美子編：助産師基礎教育テキスト第1巻 2020年版 日本看護協会出版会

成田伸編：助産師基礎教育テキスト第3巻 2020年版 日本看護協会出版会

成績評価方法：課題レポート、課題発表

その他（メッセージ等）：

助産師の活躍の場は多様です。国際的な視野から、人々の生活に根ざした視点まで、各々のニーズに対応する助産業務のあり方について考えましょう。

授業内容(学習項目) (30回)

回数	項目	内容 (キーワード等)
第 1-6 回	助産管理の基本 助産師の業務と責務 助産師を取り巻く法律	1.管理の基本概念とプロセス 2.助産管理の概念 3.助産と医療経済 4.助産ケアの評価と課題
第 7-9 回	助産管理の実際 助産師の自律と責任	1.助産業務管理の過程 2.助産業務管理の方法 3.周産期管理システム (NICU/母体搬送システム /オープンシステム) 4.産科棟の管理 5.外来の助産管理
第 10-14 回	ハイリスク児の管理	1.病因、病態からみた児の異常 2 臓器別にみた児の異常
第 15-17 回	海外における助産師活動	1.海外活動の実際
第 18-27 回	開業助産師の活動 行政における助産師の活動	1.地域で活動する開業助産師の実際 2.行政で活動する助産師の実際 3.助産所における助産業務管理
第 28-30 回	開業助産師の活動 (セルフケア支援)	1.骨盤外計測 2.妊産婦と運動、アロマセラピー、ツボ

区分名：看護を統合する科目

科目名(英語名称含む)：マネジメント・リーダーシップ論(Management leadership theory)

教員名：佐藤 博子

開講年次：4年次，学 期：2021年度 後期 ， 必修/選択：必修

授業形態：講義 ， 単位数：2単位 ， 時間数：30時間

概要：看護サービスと何か、これを管理する事はどのようなことかについて基礎的な考え方を理解する。すなわち、看護の対象となる人々に、最も有効で質の高い看護サービスを実践するための“しくみ”を知り、そのための組織化、組織運営に必要なマネジメントについて学ぶ。また、看護実践組織を動かすリーダーシップのあり方を理解する。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標：1) 管理（マネジメント）の目的や役割について説明することができる

2) 看護管理の目的や役割について説明することができる

3) 組織の成立や運営について説明できる

4) よい看護サービス提唱のためのしくみを説明できる

5) 看護管理者の役割と責任を説明できる

6) リーダーシップとマネジメントの違いを説明できる

#### 学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェSSIONAL					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない。
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない。
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		

3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない。
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない。
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない。
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない。
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		

2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である。
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない。
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である。
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		

3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である。
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない。
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					

<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない。
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	習得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない。
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト： なし

参考書：系統看護学講座 統合分野 看護管理 医学書院、他講義内で提示する

成績評価方法：授業の出席状況 10%、レポート 30%、試験 60%により評価する。

その他（メッセージ等）：看護職の活動するあらゆる場で「看護管理」は行われますが、授業では病院における「看護管理（マネジメント・リーダーシップ）」を中心に授業を進めます。組織の一員として、組織目標の達成に主体的にかかわることができる基礎的能力を養いましょう。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容(キーワード等)
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション
第2回	マネジメント・リーダーシップ論とは	看護管理学とは マネジメント・リーダーシップ論とは
第3回	看護サービスのマネジメント1	マネジメントとは 看護サービスのマネジメントとは
第4回	看護サービスのマネジメント2	組織とマネジメント
第5回	看護サービスのマネジメント3	経営戦略としての病訪連携
第6回		—看護管理の新たな視点から—
第7回	看護サービスのマネジメント4	看護体制、看護提供システム
第8回	看護サービスのマネジメント5	人的資源管理
第9回	看護サービスのマネジメント6	物品管理、情報管理、医療安全と看護の質保証
第10回	リーダーシップとフォロワー	看護管理者とリーダーシップ
第11回	シップ	リーダーシップとフォロワーシップ リーダーシップ能力とリーダーシップスタイル
第12回	キャリア発達支援	キャリア形成について
第13回	看護ケアのマネジメント1	患者の権利、安全管理、医療事故対策
第14回	看護ケアのマネジメント2	チーム医療、日常業務のマネジメント
第15回		
第16回	組織と個人	ストレスマネジメント、タイムマネジメント
第17回	臨地での実際について	講義内容と臨地での現状
第18回	(実習で学ぶこと)	実習オリエンテーション GW
第19回	看護を取り巻く諸制度	看護職と法制度
第20回		
第21回	看護管理の現状と今後の取り組み	看護管理の現状と今後の取り組み 看護協会について
第22回	まとめ	
第23回	試験	

区分名：看護を統合する科目

科目名（英語名称含む）：災害看護学（Disaster Nursing）

教員名：丸山 育子、川島 理恵 他

開講年次：4年次，学 期：2021年度 後期 ， 必修／選択：必修

授業形態：講義・演習 ， 単位数：1単位 ， 時間数：30時間

概要：災害医療や被災者への支援を行っている実践家の経験談を通して、災害医療の実際や災害が人々の健康や生活に与える影響を理解する。また、災害各期において各自が行うべき役割について考える。

災害時に活動した看護職などから体験の聴講から考える。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

#### 学習目標

1. 災害サイクル各期における生活や健康上の問題を理解できる。
2. 災害サイクルの急性期における災害医療の経験談を通して、発災直後の医療について理解する。
3. 災害サイクルの急性期における災害医療の経験談を通して、災害急性期における生活や健康上の問題を理解する。
4. 災害サイクルの中長期における災害医療の経験談を通して、災害中長期における生活や健康上の問題を理解する。
5. 災害サイクルの中長期における看護職としての経験談を通して、災害時の看護職の役割を理解する。
6. 災害サイクルの中長期における災害看護の経験談を通して、災害が被災者と支援者双方の精神面へ与える影響を理解する。
7. 一連の授業を通して、災害の全サイクルを通して、自身が行うことのできる役割について考える。

#### 学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	△	修得の機会はあるが、単位

		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		認定には関係が無い
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定には関係が無い
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定には関係が無い
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定には関係が無い
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		

## 2. 生涯学習

看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。

1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定には関係が無い
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		

## 3. 人間関係の理解とコミュニケーション

自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。

1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定には関係が無い
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	◎	看護の一部として実践できることが単位認定の要件である
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	△	修得の機会はあるが、単位認定には関係が無い
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		

2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	△	修得の機会はあるが、単位認定には関係が無い
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	△	修得の機会はあるが、単位認定には関係が無い
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		

#### 5. 看護の実践

人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。

1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	△	修得の機会があるが、単位認定には関係が無い
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		

		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	○	理解と計画立案が単位認定の条件である
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	—	修得の機会が無い

		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。	
--	--	---	-------------------------------------	--

テキスト： 特に指定はありません。

参考書：

- 1) 酒井明子, 菊池志津子編集(2017). 災害看護 改訂第3版 南江堂.
- 2) 柳田邦男, 酒井明子編著(2018). 災害看護の本質 語り継ぐ黒田裕子の実践と思想.
- 3) 勝見敦, 小原真理子編 (2014). 災害救護-災害サイクルから考える看護実践. ヌーベルヒロカワ.
- 4) 黒田裕子, 酒井明子監修 (2008). 新版災害看護—人間の生命と生活を守る. メディカ出版.
- 5) 日本看護協会編 (2011). ルポ・そのとき看護は ナース発東日本大震災レポート. 日本看護協会出版会.
- 6) 山崎達枝著：災害現場でのトリアージと応急処置

成績評価方法：筆記試験（30%）、レポート内容（50%）、授業への参加度（20%）などから総合的に評価する。

その他（メッセージ等）：災害が個人や集団に与える影響は甚大ですが、どのような状況においても、人々は日々生活を送り、健康を追い求めて行きます。この授業では、災害や復興の現場で活動している方に体験談を話していただく予定です。体験談を聞いた後は、災害、生活、健康、看護について討議する時間を設けます。4年生の後半の授業です。皆さんそれぞれの考えを出し合いながら互いに刺激し合う授業にして行きましょう。

なお、諸事情により順序が変更になるかもしれません。

授業内容(学習項目)

第1～3回	災害看護における基礎的知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・科目概要, 進め方, 評価について</li> <li>・災害の種類(自然、人為、NBC、テロなど)</li> <li>・災害サイクル</li> <li>・災害看護とは</li> <li>・トリアージ</li> </ul>
第4～6回	災害サイクルの急性期における看護①	東日本大震災が起きた、そのとき福島県内の病院では

第7～9回	災害サイクルの急性期における看護②	災害派遣医療チーム（Disaster Medical Assistance Team）の活動
第10～12回	災害サイクルの急性期における看護③	東日本大震災が起きた、そのとき、看護部として
第13～15回	災害サイクルの中長期における看護①	”実体験：原発事故、放射線のこと ～福島医大を卒業するみんなに知ってほしいこと”
第16～18回	災害サイクルの中長期における看護②	あれからずっと～こころのケアセンターの実践活動
第19～21回	災害サイクルの中長期における看護③	避難所での健康問題と看護職の役割
第22～23回	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時における人の尊厳および人権</li> <li>・支援者</li> </ul>

区分名：看護を統合する科目

科目名（英語名称含む）：国際看護学（Global Nursing）

教員名：山田 智恵里

開講年次：4年次，学 期：2021年度 後期 選択

授業形態：講義演習実習 ， 単位数：2単位 ， 時間数：23時間

概要：

国際看護に含まれる各領域と対象を明示し、日本の対途上国援助の意義と実行機関の概要を説明し、国際看護技術協力活動の実例を紹介する。その中で、途上国の文化・生活・習慣、経済、教育、保健医療制度等の違いと、それらがいかに住民の健康状態に関連しているか、またこれらを考慮していかに協力活動が立案・実施されているかを理解できるよう講義する。また、看護職としての活動が国内、臨床のみならず海外、地域に広く応用できることを理解できるよう教授する。

学習目標：

国際看護の定義、活動の多様さを理解する。日本の国際看護技術協力の意義と実行機関の実態を理解する。対途上国援助活動の実態を知ることにより、看護職の国際看護活動の多様性と可能性を理解する。

講義で学んだ看護師による国内外での活動について、国際協力機関における看護職の活動の詳細について学生自ら情報を収集し、まとめ、発表することにより、国際化と看護をより深く理解する。または選択した途上国の実態を調べ、いずれも現地で展開可能な看護協力活動を自ら考察することにより、国際看護の現状を実感し理解を深める。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェSSIONAL					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	○	
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)		①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	●	

	習慣・服装・品位/礼儀	②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	●	
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	●	
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	○	
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	○	
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		

		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	○	
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	○	
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	—	
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		

		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	—	
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		

6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	○	
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
<p>看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。</p>					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	○	
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト： 南江堂 「NiCE 国際看護学」をお貸しします。授業開始前までに教育研修支援課の担当者より受け取ってください。授業終了後は速やかに同担当者へ返却してください。

参考書： なし。その代り内容を補足する論文を参考として幾つか配布します。

成績評価方法： 出席日数，授業参加度（質問など），発表方法の適正さ・内容の充実度・考察の独自性を総合的に評価します。

その他（メッセージ等）：国際協力のすそ野の広さを認識できると、いつでも国際看護実践者になりうることも理解できるようになると思います。国際看護は実は特殊なものではありませんので、多くの人に受講していただきたいです。

令和元年には独立行政法人国際協力機構 二本松青年海外協力隊訓練所を訪問し、派遣前の看護職と面談しました。R2は新型コロナウイルス感染症流行のため訪問しませんでした。R3は訪問できるか未定です。よって以下の計画は間近になりましたら変更される可能性がありますのでご承知おきください。

#### 授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	国際看護とは	定義，日本人と外国人，患者と看護職，多文化理解，国家試験出題基準（国際看護），文献紹介
第2回		
第3回	国際看護活動と対象	政府開発援助，国際協力機構，日本赤十字社，国境なき医師団，JVC，AMDA など。 在留外国人，在外日本人，発展途上の地域，国，人々
第4回	看護師と国際化	役割，倫理と社会正義，権利と健康，リーダーシップ，コミュニケーション
第5回		
第6回	演習1（1）	国際協力機構，青年海外協力隊について調べる。内容の分担をして，各自情報収集に入る。
第7回	演習1（2）	情報収集継続
第8回	演習1（3）	情報収集継続，発表準備
第9回	演習1発表	各自プレゼン（5分），質疑応答（3分）予定，振り返り
第10回	国際看護協力の実際1	フィジー「地域保健看護師の現任教育プログラム」
第11回		
第12回	国際看護協力の実際2	ラオス「学校保健政策支援」
第13回		
第14回	国際看護協力の実際3	南アフリカ「AIDS/HIV 地域在宅ケアプログラムモニタリング評価能力強化」
第15回		

第 16 回	国際共同研究の実際 1	モンゴル「地域住民活動の導入と確立」放射線被ばく，健康への予防的対策
第 17 回	国際共同研究の実際 2	モンゴル「地域住民活動の導入と確立」緊急事態に備えた地域のレジリエンス強化
第 18 回	演習 2 (1)	各自でテーマを設定し，情報収集とまとめを行う
第 19 回	演習 2 (2)	継続
第 20 回	演習 2 (3)	継続
第 21 回	演習 2 (4)	継続し，発表準備を行う．
第 22 回	演習 2	各自プレゼン (5 分)，質疑応答 (5 分) 予定，振り返り
第 23 回	国家試験問題，振り返り	過去の国際看護学関連の問題の分析と解答，全体の振り返り

区分名：看護の実践

科目名（英語名称含む）：マネジメント・リーダーシップ論実習（Management leadership theory practical training）

教員名：佐藤 博子

開講年次：4年次，学 期：2021年度 後期 ， 必修／選択：必修

授業形態：実習 ， 単位数：1単位 ， 時間数：45時間

概要：看護管理が実践されている場（看護単位）において、看護組織の管理・運営の責任者である看護師長あるいは副看護師長（主任看護師）・リーダー看護師・メンバー看護師の役割と業務の実態を知り、医療・看護チームに影響を及ぼすリーダーシップとメンバーシップの在り方を確認する。また、見学実習を通して看護管理およびリーダーシップの理論と実践の統合をはかる。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標：1) 病院組織における看護管理者の位置づけを理解できる

2) 看護管理の組織について理解できる

3) 看護管理者の役割を理解できる

4) 看護管理の実際を理解できる

5) 病院の構造・機能における看護管理を理解できる

6) 法律上の問題と危機管理の実際について理解できる

7) 看護単位における看護管理の実際について理解できる

#### 学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない。
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	○	態度、習慣、価値観を模範的に示せること
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		

		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		が単位認定の要件である。
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	態度、習慣、価値観を模範的に示せることが単位認定の要件である。
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	○	態度、習慣、価値観を模範的に示せることが単位認定の要件である。
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない。
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュ	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない。
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		

	コミュニケーション	③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	○	態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の要件である。
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない。
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない。
		②	人間の理解を深める科目		

		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	○	態度、習慣、価値観を模倣的に示せることが単位認定の要件である。
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない。
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		

		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない。
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	習得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない。
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト： なし

参考書：系統看護学講座 統合分野 看護管理 医学書院

成績評価方法：実習の規定の出席日数、実習態度・カンファレンス参加度・実習記録・課題レポートにより評価する。

その他（メッセージ等）： 実習で見学する看護管理者のマネジメント活動と授業の学びを統合し、看護管理についての理解を深めていきましょう。看護職業人として、そして組織人として卒業後働き始めるみなさんの職場適応、フォロワーシップなどこれからは繋がる学びとなることを期待します。

授業内容(学習項目)

- |   |
|---|
| 1. 病院施設の看護管理者の実際についての集合研修               |
| 2. 看護管理者、リーダー看護師、メンバー看護師の役割や業務についての見学実習 |